

## 《薬局サーベイランスコメント》

『インフルエンザの患者数の急激な増加は継続しており、流行は更に拡大していくと予想される』

2018年12月11日  
済生会中津病院感染管理室  
安井 良則

薬 局 サ ー ベ イ ラ ン ス  
(<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasukei/index.html>) によると、今シーズン（2018/2019年シーズン）の2018年第49週（12月3日～9日）のインフルエンザの1週間当たりの推定患者数は62,134となり、流行開始の基準値を超えた前週の値（第48週：36,580）よりも大幅に増加しました（図1）。また、休日明けの今週（第50週）の月曜日（12月10日）の1日当たりの推定患者数は21,345と今シーズンこれまでの最高値（11,447）を大幅に更新しており、今週も患者数は大きく増加していくと予想されます。

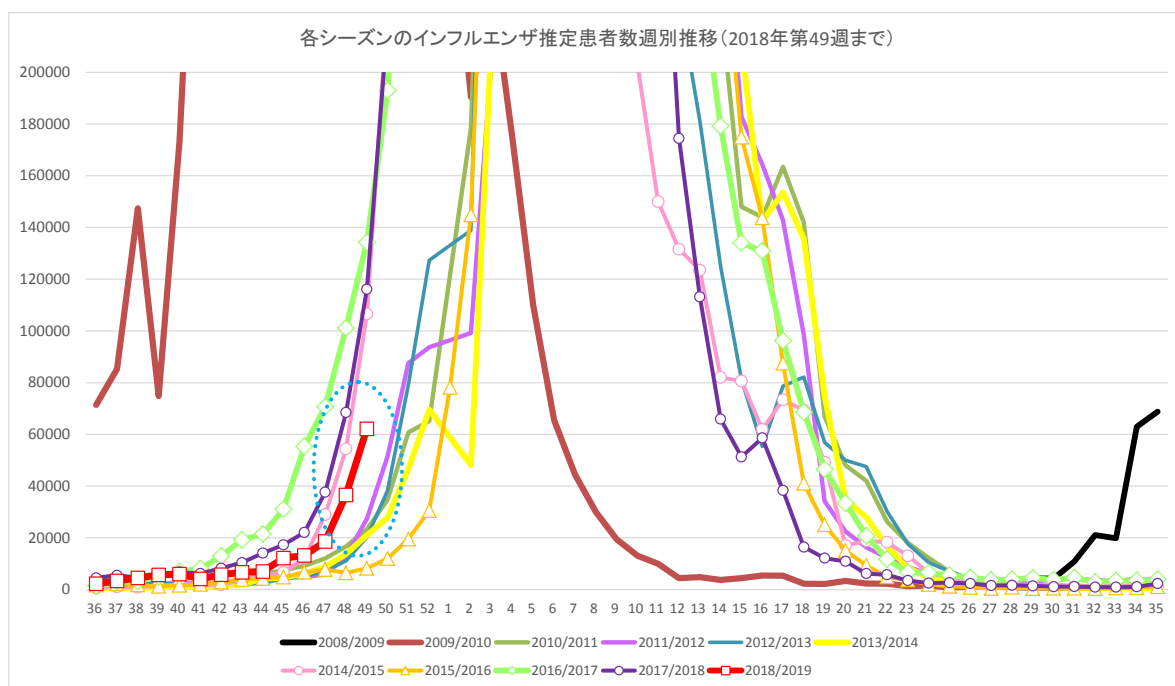


図1. 過去10シーズンと今シーズン（2018/2019年シーズン）の第36～第49週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（第49週の推定患者数：62,134）

各都道府県別の第49週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると北海道、愛知県、三重県、富山県、鹿児島県、福井県、大分県、群馬県の順となっていて、41

都道府県で前週よりも患者数の増加が見られています。

2018年第36週から第49週までの累積の推定患者数は187,891であり、年齢群別では5～9歳(20.4%)、10～14歳(13.6%)、40～49歳(13.5%)、30～39歳(12.5%)、0～4歳10.9%の順となっていて、5～14歳の年齢群の割合の増加が目立ちます(図2)。

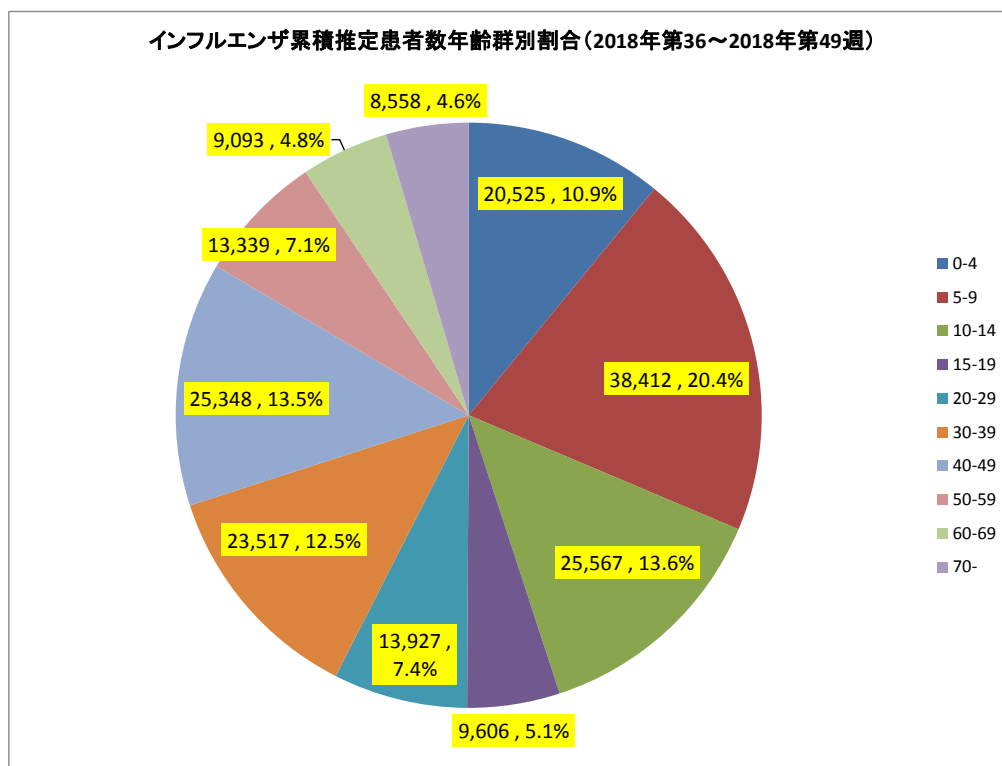


図2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合(2018年第36～2018年第49週、累積推定患者数=187,891)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>)によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(231検体解析)は、A/H1pdmが71.0%と多く、次いでA/H3(A香港)亜型26.4%、B型2.6%の順となっています。

12月に入ってもインフルエンザの患者数の急激な増加は継続しており、今週(第50週)、来週(第51週)と流行は更に拡大していくと予想されます。今後ともインフルエンザの患者発生状況には注意が必要です。